

第1回 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会 議事要旨

日 時	平成27年11月27日（金） 14時～15時30分
場 所	小牧市役所本庁舎 6階 601会議室
出席者	【委員】（名簿順） 柴田 謙治 金城学院大学人間科学部コミュニティ福祉学科教授 前田 光咲子 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会北里地区副会長 鈴木 道子 北里地域包括支援センター ゆうあい管理者 成瀬 善男 藤栄シニアクラブ代表 松浦 詩子 小牧市ボランティア連絡会会長 長江 啓司 小牧市小中学校校長会 桃ヶ丘小学校校長 羽飼 憲次 小牧市障害者相談支援事業所ふれあい総合相談支援センター相談支援専門員 鳥居 由香里 こまき市民活動ネットワーク理事 松浦 早苗 保健連絡員代表 深堀 眞喜子 小牧ケアサービス まごころ会長 大杉 富孝 一寸奉仕こまき代表 森 健一郎 小牧市社会福祉協議会 地域活動専門員 花村 琴美 公募市民 桑山 美知代 公募市民 【欠席委員】 山本 和彦 小牧南区長会会長 大西 良雄 小牧市地区民生委員・児童委員連絡協議会篠岡地区会長 【事務局】 入江 慎介 健康福祉部 福祉総務課長 松本 誠一 健康福祉部 福祉総務課庶務係長 落合 眞治 社会福祉法人小牧市社会福祉協議会地域福祉課長
傍聴者	0名
配付資料	資料1 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画策定委員会設置要綱 資料2 委員名簿・配席表 資料3 地域福祉計画の概要 資料4 第2次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の概要 資料5 第3次小牧市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定に係る基本方針 資料6 今後のスケジュール案 資料7 地域福祉に関する市民意識調査の概要 参考資料1 小牧市審議会等の会議の公開に関する指針

主な内容

1. 開会

（1）委嘱状交付

（2）委員紹介

- ・資料2に基づき、各委員から自己紹介。

（3）会長・副会長の選任

- ・事務局より、資料1を用いて、会長・副会長の選任について説明。
- ・会長を柴田委員に、副会長を大西委員に決定。

(4) あいさつ(柴田会長)

2. 議題

(1) 会議の公開について

- ・事務局より、参考資料1を用いて、会議の公開・非公開の規定等について説明。
- ・委員により会議は公開と決定。
- ・議事要旨の公開を了承。

(2) 地域福祉計画の概要及び第3次計画の策定方針について

- ・事務局より、地域福祉計画の概要及び第3次計画の策定方針について、資料3～5及び第2次地域福祉計画を用いて説明。
- ・質疑、主な意見は以下の通り。

鳥居委員)

- ・子どもの貧困、中年層・高齢者の貧困、孤立化など年齢層によって課題が異なる。生活困窮者対策については、それぞれ分けて考えなければならない。
- ・より多くの方から意見を聞くためアンケート実施すると言われたが、実際に活動されている団体からの意見聴取を実施すべきである。
- ・実際に活動をする中で、不具合が生じている。例えば、市民センターでふれあい会食会を開催しているが、施設の使い勝手が良くない。活動を行うにあたって、施設のあり方についても、時代、市民ニーズに沿ったものに変えていくことが必要である。

事務局)

- ・今年度から生活困窮者自立支援法が施行され、福祉総務課の窓口で専用窓口を開設し、相談支援、就労支援、住居確保についての事業を行っている。委員のご指摘のとおり、中年層の方の相談が多い状況であり、年齢層に応じた対応の検討が必要と考える。
- ・活動されている方のご意見をお聞きするため、アンケートという形ではなく、団体ヒアリングを実施する予定である。
- ・施設利用のあり方については、庁内関係部署と協議し、より良い形を目指したい。

柴田会長)

- ・名古屋市では、困窮者の子どもに対してボランティアによる学習支援を行っている。そのような担い手がいるかが問題である。

大杉委員)

- ・ご近所福祉ネットワークは本当に必要だと思うが、どこかの地域で計画のモデル事業を実施しているのか。
- ・行政として、地域協議会と歩調を合わせ、設立支援をしていることは理解するが、現実、今のスピード感、内容などを考えると、こだわり過ぎるのはよくない。

事務局)

- ・モデル事業については、現時点で実施しているところはない。
- ・市と社協としては、小地域、主に区を単位としたサロンや健康体操、要支援者マップの活用などの個別支援を行っている状況である。
- ・ネットワークについては、それらの小地域の活動を共有化し、小地域では取り組めない活動につなげるため、小学校区を単位として、区長や民生委員、活動者を中心に地域座談会を開催するなどし、その必要性について共有化を図っているところである。

花村委員)

- ・ 南部コミュニティセンターでは、今年度から福祉生活部会を新たに設置し、福祉分野の取り組みについて検討中である。サロンとちょっとした手助けなどを実施したいと思っている。
- ・ 南部地区では、コミュニティセンターでまとまりがある。小学校区に拘らず、出来ることから始めたい。

大杉委員)

- ・ 陶、篠岡の地域協議会において、ボランティアを募集し、参加しているといった動きはないと聞いている。
- ・ 福祉の動きを出していこうとすると、役員の方には、重たいというイメージである。
- ・ ただ、ボランティアの方と連携してみてもどうかという働きかけをすると、若干の反応がある。
- ・ 地域福祉の推進に向けては、このあたりの課題をどうするかが大きなテーマになると思う。

事務局)

- ・ 陶、篠岡の地域協議会では、住民ニーズを把握するため、アンケートをされた、もしくは今後する予定とのことである。
- ・ そのあたりを踏まえ、福祉の動きが出た際には、ボランティアの方、私ども福祉関係者も一緒に検討の場に参加できればと思っている。

森委員)

- ・ 地域福祉計画に盛り込むべき事項として、避難行動要支援者関連があるが、前田委員より、先駆的に実施している北里地区の動きについて紹介してほしい。

前田委員)

- ・ 平成 21 年度に北里地区の民生委員がモデル地区として、特にひとり暮らし高齢者を中心にした要援護者マップを作成し、市と社協、地元区で共有した。
- ・ その後、3 年ごとに更新しており、今年度がその年にあたるが、災害対策基本法に基づき整備された災害時避難行動要支援者台帳が市から配布され、既存のマップと市配布の台帳の整理が今後の課題である。

鈴木委員)

- ・ 高齢者の総合相談ということで、地域に出向き相談を聞き、対応している。
- ・ 最近は認知症、ひとり暮らし高齢者も増えてきている。ただ、そういった方の中には自ら声をあげることが出来ない方もいる。そういう意味からもご近所のネットワークは本当に必要だと感じる。

成瀬委員)

- ・ 老人クラブ活動として、ひとり暮らし高齢者宅の友愛訪問をしている。

松浦（詩）委員)

- ・ 月 1 回サロンを開催しているが、参加者の緊急連絡先を独自で作成した。
- ・ 支援等が必要な方の情報について、その方に関っている者で共有するなど有益な手法が必要だと感じる。

長江委員)

- ・ 学校現場では福祉教育の充実を図っている。認知症サポーター養成講座も開催した。
- ・ 施設訪問をし、歌や楽器の演奏会なども行うなど交流会をしている学校もある。
- ・ そうした活動を通じて、子どもたちが大きくなり、将来、地域において活躍してもらえればと思っている。

桑山委員)

- ・ 何か地域のために少しでも出来ることがあればと思い、委員に公募した。
- ・ 地域福祉というと重たいイメージもあったが、大きなことではなく、小さなこと、自分に来ることからやっていきたいと感じた。

深堀委員)

- ・ お互いが平等で意見が言える関係づくり、介護保険ではできないサービスをお互いの助け合いの中で実施するということで、16 年前（介護保険制度開始前）からケアサービスを展開している。
- ・ 人が困っていたら、手を差し伸べる。このことが、当たり前出来るよう教育が必要である。

松浦（早）委員)

- ・ 地域の役員が毎年変わってしまうと、決まった事業をこなすだけになってしまう。役員の方が中心となる形ではなく、別の形に変わらないと変化は難しいと感じる。

羽飼委員)

- ・ 庁内 PT は既に立ち上がっているのか。

事務局)

- ・ 庁内 PT は、既に設置済みである。
- ・ 構成メンバーとしては、健康福祉部の各課だけでなく、区長会・協働推進を所管する協働推進課、要支援者関連事務を所管する危機管理課、防犯を所管する市民安全課、子育て支援を所管することも政策課、地域 3 あい事業、生きがい創出のための生涯学習を所管する生涯学習課、生涯スポーツを所管するスポーツ推進課と、庁内ではありませんが、社会福祉協議会の職員で構成されている。

（３）今後のスケジュールについて

- ・ 事務局より、今後のスケジュールについて、資料 6， 7 を用いて説明。

（４）その他

- ・ 次回は平成 28 年 2 月頃 開催予定。

3. 閉会